

# 令和7年度第2回川崎市産業振興協議会 会議録

## 1 開催日時

令和8年3月23日（月）14時30分～16時30分

## 2 開催場所

川崎市役所本庁舎305、306会議室

## 3 出席者

### (1) 委員（16名）

鹿住会長（専修大学商学部教授）、岡田委員（明治大学経営学部教授）、遠山委員（立教大学経済学部教授）、増山委員（川崎商工会議所副会頭）、田村委員（神奈川県情報サービス産業協会川崎市交流委員会副委員長）、高梨委員（川崎地区貨物自動車事業協同組合代表理事）、館委員（川崎地域連合事務局長）、長島委員（川崎工業振興倶楽部副会長）、小林委員（川崎信用金庫常務理事）、出口委員（川崎市商店街連合会青年部相談役）、沼委員（川崎市工業団体連合会理事）、梶委員（セレサ川崎農業協同組合代表理事組合長）、星野委員（神奈川県中小企業家同友会理事・たま田園支部長）、河野委員（川崎市観光協会観光推進担当部長）、佐藤委員（川崎建設業協会副会長）、池田委員（新川崎地区ネットワーク協議会会長）

### (2) 事務局

経済労働局長、産業政策部長、経営支援部長、観光・地域活力推進部長、イノベーション推進部長、労働雇用部長、都市農業振興センター所長、企画課長

## 4 議題（公開）

- (1) 川崎市中小企業活性化条例に基づく令和7年度実施施策の検証について
- (2) かわさき産業振興プランについて
- (3) 令和8年度経済労働局主要事業について
- (4) 令和8年度からの川崎市産業振興協議会・中小企業活性化専門部会の体制について
- (5) その他

## 5 傍聴人

0名

## 6 会議の内容

(事務局)

- ・令和7年度第2回川崎市産業振興協議会の開会を宣言
- ・会議成立、会議公開及び傍聴人の有無（傍聴人0名）を確認

以下、会議録

(鹿住会長)

まずは議題1について、事務局から説明をお願いしたい。

(企画課長)

資料1～資料2に基づき説明。

(鹿住会長)

ただいまの事務局の説明を受けて、御質問や御意見があれば御発言いただきたい。

(高梨委員)

資料19ページの中小企業経営支援事業のうち、地方創生臨時交付金を活用し、市内中小貨物事業者に補助をいただき感謝する。支援対象として市の方で500社を推定し、1社あたり10万円で合計5千万円という規模で動き出したと聞いているが、神奈川県トラック協会の川崎ブロックに加盟している事業者は280社であり、そのほかトラック協会に加盟していない運送事業者で、例えば本社は他県に立地し、営業所は川崎にあるような事業所も対象として合計500社という想定だったと思うが、結果は218件しか申請がなかった。私はトラック協会の川崎ブロックの副ブロック長も兼ねているが、トラック協会として、加盟している団体に広報を強化し、申請を促していたが、非加盟団体には周知ができなかった影響があったのではないかな。

今、中東情勢が不安定化し、原油の先行きが不透明になっている状況でもあるので、ぜひ来年度も臨時交付金を使って何かしら施策を取っていただくとトラック協会としても助かる。このままいくと、物流が止まれば日本が止まるということになりかねない。何か考えていただけると助かる。

就職マッチングイベントについて、トラック協会としても南、北のハローワークを中心に会場を借りて、就職マッチングイベントを実施しているが、中々上手くいかず、トラックドライバーの担い手がいらない。先日タクシー会社と話をしたところ、トラックドライバーからタクシードライバーの方に人材が流れてきていると伺った。危機感を抱いているので、燃油高騰対策と人手不足についてぜひ支援していただければと思う。

昨年6月にトラック新法ができて、最低運賃、最低原価を決めることになったが、去年から3～4年かかると言われていたが、国土交通省が非常に力を入れていただき、来年の春から夏あたりに示されるのではないかとされている。各企業の出方は読めないが、最低でもこの金額払いなさいと言われれば、恐らく物価は上がるだろう。このあた

りが気になった点であるので、よろしくお願ひしたい。

(経営支援部長)

昨今の原油高騰については我々も危機感を抱いている。国においても値上がり分に対して補助を出すなどしており、我々も意識する中で、今回の補助金で500社を想定したが、中々そこまでいかなかったが、トラック協会様には会員向けに連絡を何度もしていただき、今後対応する際には貴団体と連携して対応してまいりたいと思う。

(労働雇用部長)

就職マッチングイベントについて、求職者と働き手を望む企業が直接対面できる非常に有効なイベントだと考えているので、引き続き力をいれてまいりたい。求職者を集めるというのはイベントを打つだけでは中々集まらないという実態がある。市としてはなるべく幅広く求職者を集めたく、企業にとっても様々な職種が集まっているイベントにすることで、求職者の参加意欲を促している実態がある。いただいた御意見を参考に、専門的なマッチングの効果をもう少し検証、見極めながらどのようなイベントを実施することが良いか検討してまいりたい。

(経済労働局長)

昨今の特に中東情勢について、ほぼ毎週、市長、副市長、全局・区長が出席する局長会議を行っているが、その場でも危機感について共有している。実際に新年度予算は議会の承認をいただき動き出すが、それはそれとして、緊急で何かしら手当が必要ではないかという危機感は上層部で共有しているところなので、本日具体的にお話できる状況ではないが、市内部でも一定の意思の共有は図られているという点を補足させていただきたい。

(館委員)

資料の56ページ、雇用対策の関係で、(1)キャリアサポートかわさきにおいて、就職決定者数が443名とあるが、下の表を見ると1月末時点であるが昨年度の人数を越えていない。これは上回る見込であるという認識で良いのか。

関連して、下のマッチングイベントについて、キャリアサポートかわさきの新規登録者やこれまでの登録者に対し、マッチングイベントの情報の伝え方でどのような工夫があるか教えていただきたい。

(労働雇用部長)

資料56ページについて、1月時点では443名だが、見込では目標を達成できる状況である。

周知の方法について、キャリアサポートかわさきや市のホームページを通じたものが主であるが、労働雇用部が実施している各種イベントに担当者が出向き、次回開催のイベントのチラシを現地で配布するなど、地道なところからなるべく多くの方の目に触れ

ていただけるような手法を引き続き検討するとともに、若者に有効な SNS 等の活用については、手が出し切れていない部分もあるので、こういったところを踏まえて検討してまいりたい。

(館委員)

なるべくプッシュ型の周知の方が良いと思う。

(増山委員)

資料 67 ページの海外展開支援事業について、台湾、ベトナムへの現地渡航等によるマッチングとあり、それらの国に集中しているが、以前商工会議所にバングラデシュの大使館幹部が来て、川崎市と連携したいということで私も呼ばれお話を伺った。バングラデシュは繊維産業が盛んで、人口が 1 億 5 千万人超えて、成長が見込め、巨大なマーケットであり、平均年齢も若く労働人口が多い。近年は教育に力を入れており、私も親交を深めていこうと思う。また、非常に親日国でもあり、今後人口ボーナスを迎え、給与が上がり、生産性が上がれば成長が期待できる。設備投資等も商工会議所と市が組んで事業者に周知を行っていければと思う。みんなが注目し始めたら終わり、先行して取り組めれば良いと考える。

(経営支援部長)

産業振興財団の中に KOBS という企業の海外展開の相談窓口があり、相談ニーズとして高いものが台湾、ベトナム、アメリカなどで続いており、企業のニーズが高いところを中心に支援させていただいている。この企業ニーズについてはどちらかというと海外販路のニーズのことで、増山委員の御発言は海外人材についての趣旨になるかと思うが、今後も我々にできることをニーズに応じた形で進めてまいりたい。

(労働雇用部長)

来年度、労働雇用部の組織を改めて、人材確保の取組に注力していくよう労働・人材支援部という名称に変えて新しいポストを作る。若手、障害者、高齢者のほか外国人も様々な国の人材が川崎に入ってくるので、そのような人材をどのように企業に結び付けていくか、どのような施策が必要か、まずは調査・研究から取組を進めてまいりたい。引き続き関係機関と連携し情報共有を図っていきたい。

(河野委員)

資料 45、46 ページの市民・「農」交流機会推進事業について、観光協会としても今年度春と秋に収穫体験ツアーを市の農業振興課と農業者を訪問させていただき、合計 3 回催行した。内容としてはイチゴの摘み取り体験が一番人気で、来月のツアーも発売後 30 分で完売したので、市民の方の興味を示された。川崎市にとって収入的には工業の方が大きいと思うが、農業も継続できるよう支援していただければと思う。

農業者とも話をするが、小さな農地で少量多品種なところが多く、一番ネックなのは

配送面で、近くの直売所で売ることがほとんどだが、市の南部の方でも販売ができるよう、物流の支援をしていけば広がりにつながると思う。

(都市農業振興センター所長)

イチゴの摘み取り体験は、委員の御発言にもあるとおり非常に人気であり、市内の観光農園に休日には1日あたり100人、200人訪れていると聞いている。

配送の話もあったが、逆にイチゴ農家からすると、ネックの解消として農園に来ていただいて、イチゴを食べるだけではなく、その場で見て体験するということがPRを行っている。

個人で南部に配送手段を確保することは中々難しいので、我々がJAと連携して取り組んでいるのは南部でイベントを開催してそこで買いに来ていただき、また食べたいということになれば、ぜひ北部の方に来てくださると、単純に買うだけでなく、見に来てもらい、北部の良さを知ってもらうような、観光面も含めて、また、観光との連携を図り、広い考え方で支援等取り組んでまいりたい。

(池田委員)

資料16ページの意見の部分で既存企業がスタートアップ企業に出会う機会があれば良いという意見は私も考えていたところであり、既存企業が抱える人手不足や生産性向上など様々な課題をAIやセンサーなどスタートアップ企業が得意とする技術を用いることで、解決に向け実現できる可能性があると思っている。私自身経営者でスタートアップ企業と連携することで様々な効果を感じているので、引き続き取り組んでいただき、好事例が生まれると良いと思う。一方でスタートアップ企業の方々とお話をすると、資金を集めて自分の製品を作り上げる、自社を黒字化させるといった目先のことで手一杯であり、他社を支援する余裕がない事情もある企業も多いので、既存企業のモチベーション向上もゴールとして重要であるが、そこに至るプロセスとしてスタートアップ企業側にもメリットがあり、モチベーション向上につながるような施策、例えば地元中小企業に貢献することで自分たちのメリットにつながるような施策も含めて検討していただきたい。そのような地元企業と連携して成功するスタートアップが増えることで、川崎市で起業したいというモチベーションにも繋がると思うので、引き続き検討いただきたい。

(イノベーション推進部長)

今年度の取組で、新川崎ではないが、市とNEDOで運営しているスタートアップ支援拠点のK-NICで、ものづくり相談窓口を開設しスタートアップ企業が市内中小企業と結びつきながら、例えば試作を作りたいということであれば市内のものづくり企業とマッチングするなどの取組を行っている。また新川崎では入居企業のロボットアームを製造しているスタートアップ企業が、市の補助金を活用して市内の高津クラフトに協力をいただき、ロボットアームを工場内で設置する実証に発展した事例もある。高津クラフトとしてはAIを使ったロボットアームによる効率化という面とスタートアップ企業としては事業としての実証ができるように、お互いがWin-Winになるような取組も出てきて

いる。引き続きそのような取組を創出してまいりたい。また、市内大企業においてもイノベーションエコシステムということで、お集まりいただき、ポテンシャルのある市内の中での様々な繋がりやあるいはプラットフォーム化していき、その中にスタートアップ企業や市内の中小企業が参加いただきけるような取組を進めてまいりたい。

(鹿住会長)

東京都墨田区の中小製造業者がスタートアップ支援をしており、その会長はスタートアップの支援をしても、スタートアップ側も中小企業側もあまり良いことが無いと話がされていた。確かにスタートアップ側が試作を中小製造業に依頼して、中小製造業が対応しても量産に繋がらなければその企業は儲からない。スタートアップが製品を開発して事業化していくための支援になるからと行政から言われて始めたが、実際には量産に繋がらず、量産は海外でやってしまう。スタートアップ側は量産段階でもっと人件費が安く、コストの安い国でやると正確性や精密さを担保して生産する日本の企業と比べてやり方、作り方が合わないことがある。試作を助けてくれた日本企業ではなく、安く作れるところに力点が置かれてしまう。

スタートアップと地元企業が連携すると良いということはその通りであるが、実際にやってみるとそうでもなかったということもあるので、様々な事例を研究し、連携のあり方やお互い Win-Win になれるのか深掘りしてからマッチングしていくやり方もあるかと思う。

(イノベーション推進部長)

お話いただいた当該事業者は K-NIC のアドバイザーになっていただいているところで、高津クラフトの方々とも交流があるということで、御意見をいただきながら検討を進めてまいりたい。量産化という点についてはそこまで達しているフェーズの事例はまだなく、また、これから海外での生産コストがどうなるか、経済安全保障などの観点もあるため、そういった点を見極めながら施策を検討してまいりたい。

(小林委員)

資料 19 ページの中小企業経営支援事業について、先ほど原油高の話があったが、イラン情勢が悪化することで原油高になっているところに関連して、様々な策を練っているとのことだが、昔、川崎市の緊急経済対策融資という川崎市の信用保証協会の保証料を補助していただく制度があった。私が現場対応に奔走していた頃、中小企業の経営者の方が助かったと記憶している。原油高が長引けば長引くほどほとんどの業種に影響を及ぼすので、そのような状況になった際には保証料補助の検討をいただきたい。加えて、ゼロゼロ融資や一步踏み込んで、利子補給など予算の関係で難しいかもしれないが、やっていただけると地元中小企業は助かるのではないかと。

(経営支援部長)

この間、物価高、原油高に対する企業の資金繰り支援ということで、伴走型経営力強

化資金について信用保証料が元々50%のところ、70%に引き上げて対応した。新年度でも継続して対応させていただきたい。また、状況に応じて資金繰り支援の対応は検討してまいりたい。

(出口委員)

地域の街路灯、防犯灯や防犯カメラなど支援していただいで感謝する。老朽化が目立ってきているので引き続き支援をお願いしたい。商店街は団体ということもあり、団体名で活動することや個店が商店街に加入することも減ってきているところであるが、商店街は地元のお祭りもそうだが、商店街名指しで関わったりする団体でもあり、地域に根差している団体でもあるので、引き続き支援いただきたい。観光面でもできる施策はやろうと考えているところで、商店街ツアーなど地元の人や在外の人も楽しめるような取組に頭を悩ませているところだ。ぜひお知恵を拝借したい。

(観光・地域活力推進部長)

施設整備について、令和7年度、国の地方創生臨時交付金を活用して通常1/2補助のところ3/4補助に補助率を引き上げた。今まで防犯灯、防犯カメラの補助率は上げられていなかったが、今回で20団体ほど申請いただいた。このあたりはニーズも高いので、令和8年度も同じ補助率で実施する。

街路灯補助について、以前商業担当をしており、私が担当していた頃は1件も申請が無かったが、令和7年度実績で2件あった。これで少し街が元気になっていくのかと思う。

商店街の活性化においては、商店街は地域のコミュニティであり、買い物だけではないと考える。令和8年度から新たな事業として、賑わい創出事業と位置づけ、商店街の場を有効活用できないかと考えている。中々商店街の人だけでは場の有効活用ができないという課題もあるかもしれない、また、もしかしたら地域の人が商店街で何かやりたいといったお話があるかもしれないので、そのような人たちとマッチングできないかということも始めていきたいと思う。

(岡田委員)

各項目KPIを設定し、数値を出していただいているが、検証というならばその先のところまで情報が無ければいけない。セミナーに何社参加して、そのうち何社が実際に起業したという情報であれば良いかと思うが、セミナーの実施回数を目標設定して、実際の回数を出すことや、セミナーに参加者の目標を設定して実際の参加者数を出すというのは単にKPI達成に向けてのプロセスであり手段である。このような検証をするならばどういう取組をやった結果、どのような成果が出たかまで繋げられると、次の計画策定の際により良くなっていくのではないかと思う。

経営支援の話だと、高梨委員がトラック業界からドライバーがタクシー業界に流れている話をされていたが、緊急対策として補助金を出すこと自体は素晴らしいが、業界としてはなぜ人材が流出するのか、なぜ新しい人が入ってきてくれないのか、それは賃金

の問題なのか、労働環境の問題なのか、根本を突き止めて、根本の解決を図る何らかの施策を展開していかなければ、緊急対策で毎年補助金を出していても業界として改善に繋がらないと思う。根本の課題発見から課題解決に向けて取り組むことを今後検討していただければ、より良くなっていくのではないかと考える。

(遠山委員)

あらゆる課題に対し適切に対応していただいているかと思う。昨今の社会経済環境の変化は大きく、個々の施策については適切かと思うが、産業政策や都市政策やまちづくり、労働政策といったものが有機的に繋がるような課題解決を目指すことが必要と感じる。例えば空き家という文字は資料6ページのソーシャルビジネスのところに少しだけ書いてあるだけで、東京世田谷では空き家は膨大にあるので、推測するに川崎にも空き家が多いはずである。人が住んで、暮らして、働いてという当たり前のことが産業政策、都市政策、まちづくり、賑わいづくり、商業政策等が有機的に繋がった形のあるべき姿を目指すが良い。今回の産業政策や農業政策等も含めて適切と言えるが、「暮らす」という面がまちづくりにどのように繋がり、持続可能な川崎市に繋がっていくのかが見えない印象を持った。

(鹿住会長)

岡田委員お話の通りアウトプット指標だけでなく、アウトカム指標の分析も必要であるという点に関連して、令和4年度から令和7年度まで4年間の目標と実績を記載していただいているが、目標に対して実績が大幅に上回っているもの、反対に下回っているものがある。かわさき産業振興プランを策定し、そこで目標を立てて4年間踏襲しているものだと思うが、例えば恒常的に目標を上回っている施策もあれば、右肩下がりのものであるが、それがなぜそうなっているのかが重要だ。ビジネスサイクルのPlan、Do、Check、Actionの4つのマネジメントサイクルは、計画に対して実績がどのようになっているか差異を分析して、次のアクションに活かすというもので、企業が実践していることである。例えば17ページの出張キャラバン隊によるコーディネート活動について、Planの470に対し、Doが2月時点であるが、278で下回っている。反対にワンデイ・コンサルティング件数は目標240に対し、248と上回っており、過年度を見ても上回っている。なぜその差異が生じているか分析しなければならない。キャラバン隊はニーズが下がってきているのか、施策の周知が十分に行き届いていて一定経験済なのかもしれない。原因は何なのか調査して原因を突き止めれば、キャラバン隊は少し減らして、ワンデイ・コンサルティングは増やすなど、計画と実績の差異がどのようになっているかを分析して次の計画に活かしていく。4年間計画が変わらないのはかわさき産業振興プランに基づいているからだと思うので、次のプランの時に目標の件数というのは見直していただき、実際のニーズに合わせた、あるいは新しいニーズに形を変えるなどを行い、適切にPDCAサイクルを踏襲して進めていただきたい。目標に対してたくさん利用しているというのはそれだけニーズがあるということだと思う。また、予算配分が変われば施策も変わっていくと思うが、よろしくお願ひしたい。

以上で議題1を終了とし、議題2について事務局から説明をお願いしたい。

(企画課長)

資料3～5に基づき説明。

(鹿住会長)

ただいまの事務局の説明を受けて、御質問や御意見があれば御発言いただきたい。

(館委員)

資料4の概要版のP10で、基本施策3の取組項目(4)に競輪場づくりとあるが、かなり具体的な記載の仕方で、競馬は記載がなくて良いのか。

(企画課長)

競輪に関しては特別会計で川崎市が全面的に運営をされており、競馬に関しては県と市で共同で運営しており、共に公営事業ということで連携して取り組んでいるところであるが、趣旨としては競輪で出している。いずれも公営事業でありつつ観光資源としても捉えている。経済労働局一体で連携しながら取組を進めてまいりたい。

(出口委員)

資料5の表紙について、工業のシルエットだけでなく、商業や観光など他のシルエットも入れていただく方が良いのではないかと。

(企画課長)

中小企業活性化ハンドブックの表紙にもあるとおり、工場夜景をベースにAIを活用してデザインした。色もブランドロゴと同一にして組み合わせたところである。委員の御意見ももっともであると思うので、今後作成する際には再考してまいりたい。

(高梨委員)

前に市長が市内のバスドライバー、ごみ収集のドライバー不足について話をしていた。市バスの運転には大型Ⅱ種免許が必要で、このあたりの補助についての話を市長がしていた。今どうなっているのかお聞きしたい。

(労働雇用部長)

バスドライバーの直接補助は経済労働局ではやっていない。市長は市バスの運転手不足に対して、自動運転バスの実証実験を通じ、将来のドライバー不足に対応していくような取組を行っていく旨の発言はされている、という状況である。

(経済労働局長)

補足だが、バスについては恐らく交通局、ゴミ収集については環境局の方でそれぞれ

対応しているかもしれないが、今我々の方で情報がないので、お調べしたい。

(会議後補記) バス、ゴミ収集の運転手の人材不足に伴う直接的な支援については、事務局から庁内の関係部署に問合せを行い、現在、本市では実施していないことを確認し全委員に通知した。

(鹿住会長)

バスの運転手不足も深刻で大学の教職員バスも運転手不足を理由に存続が危うくなった。学生が使う通常の路線バスも本数が少なくなり、運転手不足は非常に深刻で様々なところで影響が出ていると感じる。

以上で議題2を終了とし、議題3について事務局から説明をお願いしたい。

(企画課長)

資料6に基づき説明。

(鹿住会長)

ただいまの事務局の説明を受けて、御質問や御意見があれば御発言いただきたい。

(星野委員)

「キャリアサポートかわさき」について、相談窓口の記載があるが、女性の相談窓口はあるようだが、障害者の方は本当に相談に来やすくなっているのか。窓口があつての支援だと思う。

(労働雇用部長)

「キャリアサポートかわさき」は特に求職者の対象を限定することなく、障害のある方も幅広く受付をしている。専門的な窓口、支援体制になると本市健康福祉局で障害者支援を行っている部署があり、我々も連携し、情報を共有しながら障害のある方にもしつかり対応してまいりたい。

(鹿住会長)

以上で議題3を終了とし、議題4について事務局から説明をお願いしたい。

(企画課長)

中小企業活性化専門部会の専修大学の遠山委員が令和7年度末で退職になる旨と、令和8年度からの中小企業活性化専門部会委員の候補として現川崎市産業振興協議会委員の立教大学の遠山委員を推薦する旨を説明。

(鹿住会長)

ただいま事務局の説明の通り、「川崎市附属機関設置条例」第8条第2項において、「部会に属すべき委員及び臨時委員は、会長が会議に諮って指名する。」とあるため、

立教大学の遠山委員の中小企業活性化専門部会委員の就任指名について、異議は無いか。

(一同異議なし)

(鹿住会長)

それでは、本日の議題は以上とする。長時間にわたり御議論いただき、感謝申し上げます。その他事務局から連絡事項をお願いしたい。

(企画課長)

来年度のスケジュールについて資料7を用いて説明。

委員の任期等について説明。

中小企業活性化ハンドブックについて連絡。

(事務局)

長時間にわたるご議論に感謝申し上げます。本日の会議はこれで終了とする。

以上